



## Sustainable Society Design (SSD) 3<sup>rd</sup> Year High School



## 2022年4月22-7月1日SSD(高3)授業「SSDでの取り組み/リサーチブックに向けて」

前回の講座で確認した通り、SSD(Sustainable Society Design)での最終目標は、これまでのSSS、SSRの取り組みの集大成としてリサーチブックを完成させることです。教員は指導をするというより、アカデミックな経験を積むうえでしっかり助言しアドバイスをするといい立場で皆さんと関わっていきたくて考えています。そのために、とにかく全員でよく話し合い、意見やアイデアを出し合い、それを一つの形にまとめてもらいたいと思います。

### 【自分たちのテーマを見つけよう】

- 本年度の大きなテーマ  
Sustainable City  
Sustainable Development



- 興味のあることは何だろう？  
アイデアを引っ張り出そう！話をしよう！

### 山田教諭

私が興味のあるテーマは、Walkable Citiesです。持続可能な社会を考えたとき、書籍などを通して、車に依存する社会が環境や私たちの生活へ及ぼす悪影響を深刻な問題として再認識するようになりました。

### 帖佐教諭

実は以前は田舎に全く興味がありませんでしたが、まちづくりのリサーチを通してヨーロッパの地方都市をはじめとした個性あふれる素敵な田舎に関心を持ちました。日本では田舎が都会の劣化版であるようなさびれた場所となっていることに対して、美しい自然やその特色を活かして将来に向けた解決策があると感じています。



皆さんも、リサーチブックのトピックを考えるうえで、自分の興味や、持っているアイデア、以前からの疑問などを整理して、日ごろからそういったことに対して意識を向けて過ごしてみたいと思います。

グループを作って意見を出し合い、自分たちの関心事項をホワイトボードに書き出してみることになりました。

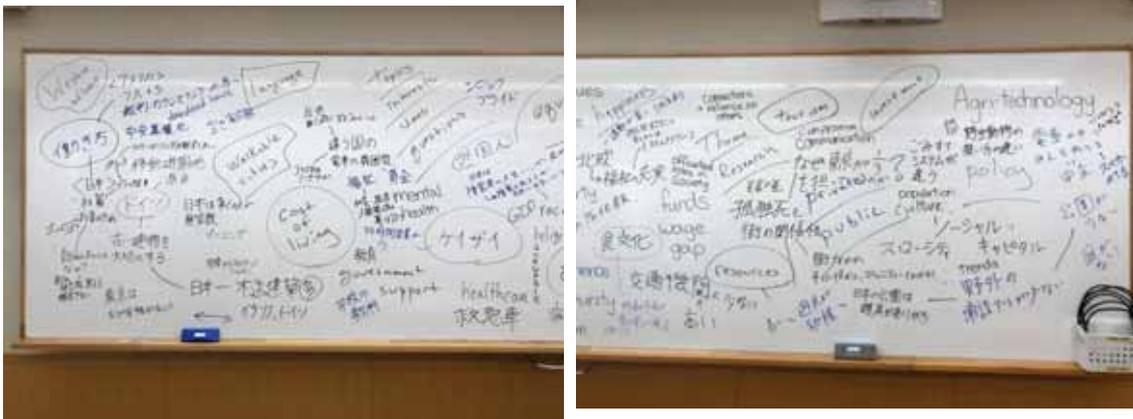
生徒たちから出た様々なキーワード

Abandoned house, Language, Walkable cities, Mental health, Healthcare, Cost of living, Government support, GDP

シビックプライド、<アメリカ>・リストラ→働き方・裁判・カウンセリングが多い、中央集権化、空き家問題、<日本>・社蓄、ブラック企業、パワハラカウンセリング・お金のためーゴールは？自分のしたいことなの？自分の生き方を考える機会少ない、<ドイツ>・移動遊園地・古い建物を大切にする⇔日本一木造建築多い、日本は多くが無宗教、ゾーニング、違う国の電車の雰囲気、賃金、福祉・社会・経済・人間関係の基盤、24時間営業、救急車、病院、教育

Racism, religion, renewable, equality, compact city, welfare, values, cultural importance, poverty, differences, education, a community, convenience happiness, connections + reliance on others, Official roles in society, funds, wage resource, tourism, investment, compromise, communication, equality, differences, cultural importance, happiness, private, public, resources, government support, policy

次から次へと書き出す生徒たち。あっという間にホワイトボードは生徒たちの関心事項や興味、疑問でいっぱいになりました。テーマは幅広い中から選ぶことになりそうです。



最後にグループごとに、話した内容を簡単にまとめて発表しました。生徒たちは、住みたい街がどのような街かという発想のもとに、安心して歩くことができる、散歩したくなる、公共交通機関の利便性の良さ、誰にも配慮したバリアフリーである、楽しめるイベントがある、地元の良さを感じるマルシェなど定期的に住民が集える場所がある、などをキーワードとして挙げていました。「誰にも」ということも多くの点で共通の重要なワードであったようです。

## 【専門書の精読】

テーマに関係する専門的な本を読み、その内容をまとめて、発表することに取り組みます。それぞれが読んだ本の内容を共有することで、多くの情報を得ることになります。ただまとめたり発表したりするのではなく、相手に伝わりやすい工夫を凝らし、資料の作成では守るべきルールもあります。そこで、まずは教員の発表を実際に聞くことで学びます。

### ● 帖佐教諭のまとめと発表を参考にする

帖佐教諭が選んだ本

『フランスの地方都市にはなぜシャッター通りがないのか』

ヴァンソン藤井由実、宇都宮浄人（学芸出版社、2016）



#### 要約より

フランスの地方都市は、中心市街地がにぎわっている。老若男女が思い思いに街歩きを楽しみ、広場に面したカフェで憩う。これは、フランスがシャッター街になる前にまちづくりの考え方を換え、それを実践し、「豊かな生活」を実現しようとしたことによる。本書では、人口10万人以上、100万人未満の地方中核都市に焦点を当て、まちづくりのダイナミズムを支える軸として交通を位置づけ、その上で、商業政策、土地利用など都市政策全般までが論じられている。交通に関しては、自動車ではなく、LRTを軸に交通まちづくり戦略が紹介されている。フランスと日本の比較も行うことで、日本の地方都市再生へのヒントとなる内容となっている。

#### 内容より

- 1 歩いて暮らせるまちを実現する交通政策と、賑わう都市の「まちなか」ができるまで
- 2 中心市街地商業が郊外大型店と共存する仕組み
- 3 都市政策としてのコンパクトシティ政策
- 4 社会で合意したことを実現する政治
- 5 フランスから何を学ぶか

### ● 本から新しく知ったこと、考えをまとめる

生徒たちは、内容について説明を聞いた後、以下の点についてまとめました。

- ・この本から新しく知ったこと
- ・この本から知ったことをもとにしてあなたが考えたこと
- ・この本から知ったことをもとに、生まれた疑問や知りたいと思ったこと

### ● 専門書を読んでまとめる上で気を付けることについて考える

帖佐教諭のまとめでは、生徒たちにとってもともと関心の高いトピックを扱っていることもあり、大変興味深く話を聞きました。日本の田舎が、都会の単なる劣化版となってさび

れ、人口減少が進んでいることと比較すると、フランスの地方都市はその都市らしさと住民が自分たちらしさを大切にする文化を守り、そのことが住民のさらなる街への愛着にもつながっているという対比が印象的でした。まとめ方では、要約や各章について、簡潔にわかりやすく、また後に振り返ってみてもすぐ理解できることも大切であることを学びました。

●山田教諭のまとめと発表を参考にする

山田教諭が選んだ本

『WALKABLE CITY: How Downtown Can Save America, One Step at a Time』

Jeff Speck (North Point Press, 2013)



From the summary

- What are the main arguments?
  - Sustainable Cities will make us Wealthy, Healthy, and Sustainable
- What is the point of this book or article?
  - Urban life
  - Street Life
  - Cars are very bad
- What topics are covered?
  - Why people should be interested in Sustainability?
  - The Ten Steps of Walkability

From the Table of Contents

- Why Walkability?
- Walking, the Urban Advantage
- Why Johnny Can't Walk
- The Wrong Green
- Then Ten Steps of Walkability
  1. Put cars in their place
  2. Mix the uses
  3. Get the parking right
  4. Let transit work
  5. Protect the pedestrian
  6. Welcome bikes
  7. Shape the spaces
  8. Plant trees
  9. Make friendly and unique faces
  10. Pick your winners

●実際に知ってアップデートする

山田教諭は、まずこの筆者について丁寧に説明し、この筆者の研究と考察が信用できるものであることを解説しました。そして、なんとなくイメージできる Walkable City について、実際はどんなものか、新しい情報をアップデートしていく必要性を学びました。

●専門書を読んでまとめる上で気を付けることについて考える

山田教諭のまとめから、本の情報をきちんと整理し、論理的に筋道を組み立てて発表することを学びました。歩く＝不便ではなく、かえって車を使わず歩くこと、公共交通機関を利用して生活する（できるようにする）ことは、

環境対策においても、何より私たちの生活の質の向上において利点があるということにおいて説得力がありました。

また、シアトルやポートランド等の多くの問題解決のための先進事例を知ることもできました。最後には、必ず自分なりの考察を入れることも重要です。

【Let's get to it Let's start with on book and build from there】



What is bibliography? It's list of sources one has used for researching a topic.

14人がこの講座を受講しているので、違う本を読み、それを共有することで、皆が14冊の本の情報を得ることになります。情報を得たのち、それをまた人に伝えてみると自分もきちんと理解できたか、情報をきちんと得られていたかを再確認することができます。

やり方を理解しよう

① Summarize as you read

First step! 主な主張は何だろう? どのようなトピックがあり何かいいたいのか。

② Assess the item

文書の目的を見極める。他の情報源と比較する。We need to be critical.

③ Reflect on the item

アイデアを書き留め、シェアする。自分自身の考察や考え方が変わった部分も。



Share your information



Repeat

【課題図書：生徒たちが選んだ専門書】

読む本を決め、お互いになぜかということディスカッションしました。

タイトル	筆者	選んだ理由
ポートランド 世界で一番住みたい街をつくる	山崎 満広	アメリカであるにも関わらず車社会ではない街。コンパクトシティをもっと知り視野を広げたい。
行政とデザイン-公共セクターに変化をもたらすデザイン思考の使い方-	アンドレ・シャミネー	人が住んで心地よいこと、その街の魅力を引き出すことの重要性を感じ、もっと知りたい。
デンマークのスマートシティ	中島健祐	環境に負荷のないまちづくり、交通機の活用にもとても関心があった。

なぜ繁栄している商店街は1%しかないのか	辻井啓作	新田辺の商店街も訪問し、シャッター街の再生にとっても興味を持った。
Smart City: Innovationen für die vernetzte Stadt – Geschäftsmodelle und Management	Oliver Gassmann	様々なドイツのまちづくりを知り、日本とは別の視点から考えてみることで新しい発見に期待している。
Happy City: Transforming Our Lives Through Urban Design	Charles Montgomery	デザインとはまた別の角度で、人の精神面を重視したまちづくりの捉え方に興味をもった。
ドイツのコンパクトシティはなぜ成功するか	村上敦	京田辺市の政策にも興味があり、ドイツでの取り組みを比較しながら知りたいと思った。
人間の街：公共空間のデザイン	ヤン ゲール	世界一と言われる街のデザインを手掛ける筆者の繊細なまちづくりの感覚を知りたい。
モビリティをマネジメントする コミュニケーションによる交通戦略	藤井聡	まちづくりにおいて交通が大きなキーポイントだと感じ、改めて課題など考えてみたい。
Bird on Fire	Andrew Ross	アメリカのよくない街を検証し、原因の探求から新しいまちづくりの視点を探りたい。
ポートランド 世界で一番住みたい街をつくる	山崎 満広	どのようにこの街ができたのか、その過程と街にあった様々な対策を知りたいと思った。
The Death and Life of Great American Cities	Jane Jacobs	その街に住んでいる人が街を生かしているという視点が新しいと思いつつも興味を持った。

(順不同)

生徒たちのまちづくりに関する関心はそれぞれ多岐に渡っていて、教員に相談しつつも、それぞれの興味ある分野の理解をより深めようと結果的にはこれだけの違った文献が揃いました。本を読み進めながら、わからないことがあればさらに調べ、講座で共有するための資料も準備します。その資料をもとにプレゼンテーションを行います。まとめている際にも、客観的に振り返り、本を読んでいない人にもきちんと本の要約や趣旨が伝わるかを確認しながら進めます。

【課題図書：プレゼンテーションのための情報デザイン】

専門書を読み進め、ハンドアウト作りとプレゼンテーションの準備に取り組んでいます。今日の講座では、その参考として、情報科の松野教諭がSSS講座でレクチャーをした「プレゼンテーションのための情報デザイン」を振り返り、現在の取り組みにおいて注意する点や工夫すべき点を確認しました。



そして、これまでに教員や生徒たちがプレゼンテーションのために作成した一枚絵のパワーポイントを参照しながら山田教諭による解説を聞きました。一見するととても完成度の高いパワーポイントであっても、使っている色が多い、バックグラウンドがごちゃごちゃしている、字が小さい、情報が多すぎる、参考文献が見辛い、均整が取れていないなど、ちょっとした改善で一段と伝わりやすいものになることを学び大変参考になりました。

【課題図書：学んだことを共有するプレゼンテーション】

1人ずつ読んだ書籍についてプレゼンテーションを行いました。聞いている生徒たちは、ワークシートに、メモや感想、わかったことや疑問に思ったことを書き込んでいきます。後でディスカッションをしたいと思ったことを1つ取り上げ、その内容について自分自身の意見も加えます。発表の際の資料、発表者が強調した内容やキーワードと質疑応答、最後に後に提出されたワークシートより生徒たちの意見や感想も紹介します。

●発表『行政とデザイン』

	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 行政とデザインとは？</li> <li>● 行政とデザインが関係する理由</li> <li>● デザインが行政に与える影響</li> <li>● デザインが行政に与える影響</li> <li>● デザインが行政に与える影響</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 本書の特徴</li> <li>● 専門家のコメントを掲載</li> <li>● 専門家のコメントを掲載</li> <li>● 専門家のコメントを掲載</li> <li>● 専門家のコメントを掲載</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● デザイン思考 design thinkingとは</li> <li>● デザイン思考 design thinkingとは</li> <li>● デザイン思考 design thinkingとは</li> </ul>	<p>ありがとうございました 終わり</p>	

オランダのまちづくりを例にケーススタディー形式で専門家のコメントを通じてわかりやすく解説。図やグラフもとても効果的に紹介されている。行政に関心がある人には特に興味をひく内容となっている。今まで対処できな感じていた社会問題に



A：結果的に住民に愛される場所になる

Q：どのような場所がプレイスメイキングに適しているか

A：人が多く人の交流を増やしたい場所など

Q：プレイスメイキングのルールはどのような効果があるか

A：まちの目指す方向性を決め、雰囲気作り、統一することで質を高める



### 生徒たちのワークシートより

プレイスメイキングには民間の力だけでは難しいと感じた。行政の協力が必須。イメージを行政、市民で共有してつくっていくことがよい場所作りになると感じた。空き地を減らす効果は良いが、実際には空き地は多いので実現には問題が多そう。1つの具定例について深く探求し説明するのもいいと思った。

### ●発表『モビリティをマネジメントする』


私の出身の愛知では、車がないととても不便。都市で交通を少しずつ改善する取り組みがあることに注目。なぜ、モビリティマネジメントが必要か。そして人々の車依存を減らす必要性について考えたい。環境問題において、都市そのものの郊外化が大きな要因ではないか。公共交通機関を使わず車は渋滞。行政サービスは広範囲をカバーできていない。車依存による運



動不足。こういった悪循環を自身でも痛感。よい3角関係（街の賑わい⇔電車やバスの利用⇔コンパクトシティ）を生み出すためにも交通機関の果たす役割が大きい。京都の成功例を紹介。

Q：自動車製造業で栄えた愛知でMMは成功させられるか

A：理解を得るのは難しい課題だが、呼びかけと新しいモビリティの開発の取り組みに期待

リティの開発の取り組みに期待

生徒たちのワークシートより

モータリゼーションの改革はまず車中心になってしまっている人々の意識、次に大規模なまちの作りを変えないといけない。お金と時間のかかることだと感じた。

「かしこい車の使い方」の小学生からの教育はとてもいいと思った。

楽しく聞き学ぶことができた。

●発表『人間の街 公共空間のデザイン』

	<p>ヤン・ゲール Jan Gehl</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・デンマーク・コペンハーゲン</li> <li>・都市計画・建築家</li> <li>・1982年「都市計画・都市デザイン」賞</li> <li>・「都市計画」編集委員</li> </ul>		
<p>第1章 人間の街</p> <p>インポート：なぜ人間の街が重要なのか</p> <p>第2章 感覚とスケール</p> <p>人間の街を歩く楽しみ</p> <p>第3章 生き生きとした、安全で、健康的な街</p> <p>歩行者の街から考えるデザイン</p>	<p>第4章 目の眩しさを減らす</p> <p>歩行者の街を歩かせる</p> <p>第5章 アクティビティ、公園、緑地</p> <p>歩行者の街を歩かせる</p> <p>第6章 歩行者の街</p> <p>歩行者の街を歩かせる</p>	<p>著者のヤン・ゲールは公共デザインを主なテーマとしている。都市を使うのは人間、人間の街をどうやって作るか。発表では、ベネチアのまちづくりを中心に本の要点をまとめる。まち全体が歩ける世界遺産。車がない、徒歩か水上バスでの移動。子供が遊ぶ公園がないが、その代り安全な街全体が遊び場に。まちを走り回る子どもたちがまちを活性化することにもなる。徒歩の生活が基本になることで日々の健康維持。</p> <p>Q：ゴンドラは公共交通機関？</p> <p>A：公共交通機関はない</p>	
<p>建築の歴史：ヴェネチア</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・適度な都市構造</li> <li>・美しい都市景観</li> <li>・美しい空間のつながり</li> <li>・歴史のある建物</li> <li>・歴史のある地上階</li> <li>・興味深い建築</li> <li>・人々にデザインされたディテール（装飾や彫刻）</li> </ul>	<p>Venice Italy</p>		

Q：このまちづくりのケースは地形の特徴の違いから日本では取り入れにくいのでは

A：個性を生かすことの参考に。そして歩くまちづくりのヒントに。狭い路地を活かすなど。

Q：救急車や消防車など緊急車両も水上バスで対応？

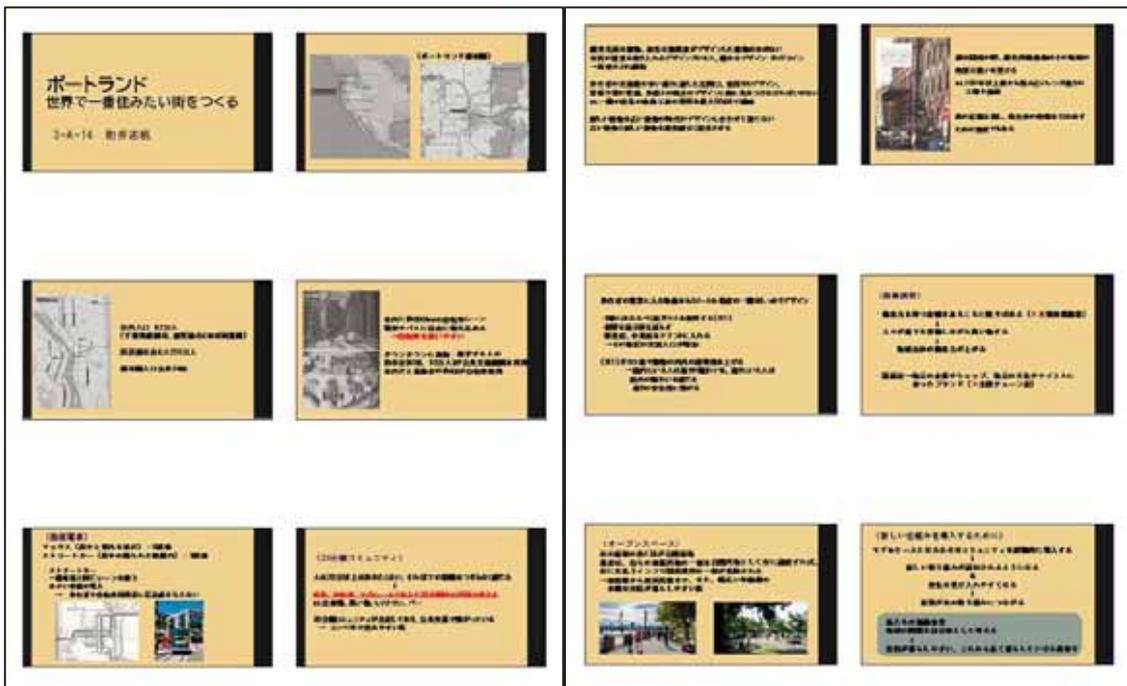


Q：温暖化による水位の上昇についての未来の対策は？

### 感想

利便性と市民の楽しみがバランスよく交じり合い、過ごしやすい街だとわかった。観光地だが、住民も過ごしやすい街。同じく路地の多い日本でも参考になりそう。ベネチアは魅力的な街だが、移住には閉鎖的なところもあるのかと疑問に感じた。動画とリンクさせた説明がとてもわかりやすかった。

### ●発表『ポートランド 世界で一番住みたい街をつくる』



アメリカオレゴン州ポートランド。「20分圏コミュニティ」路面電車や自転車移動が効率よく整備され、20分圏内で主要な場所への移動を可能にしたコンパクトシティ。市民の意見を取り入れるデザインやプロセスを経た建築物、古い建築物との融合、市の面積の12%をも占める公園の整備、そして大型ショッピングモールではなく住居やオフィスの1階部分に地元の企業を中心とした店舗を展開するなど、住民中心の住民に愛されるまちづくり。



Q：ストリートカーの良い面ではなく悪い面はあるか

A：最新のストリートカーでは音は少なく、もちろんバリアフリー、そしてデザインもおしゃれでまちに溶け込んでいく。まちの象徴ともなる。

Q：地元の企業の誘致、店にどのような特徴があるか

A：様々な業種があるが、ほぼ中小企業が中心。地元の風土を反映しやすい面がある。人が集まり、多様なジャンルの飲食店も多い。



## ●発表『Smart City』

What the goal of smart city is, sustainable, innovative and safe transportation system. For that, using technology, connecting infrastructure, energy, structures, mobility, services and security. Focused on improving life of humans. Access to many different transportation systems, reduce waste and inconvenience and improve social and economic quality. It also shows some advanced examples in Barcelona. The quality of life.



Q: スマートシティの実現のためには多くの最新技術とともに多額の資金が必要か

Q: バルセロナは完全な成功例?

A: フランクフルトでの実体験では、センサーシステムにより無駄に駐車場を探すために走り回らず済み、快適で安全であると同時に環境への負荷も減らしていた。

Q: ミュンヘンの元の道幅の狭さは交通の整備において問題になるか

生徒たちのワークシートより

まちづくりをして終わり、設置をして終わりではなく、データを集め分析してよりよいものにしていこうとする先を見据えた姿勢が素晴らしい取り組みだと思った。

テクノロジーの導入は、人にとっては便利、環境にも優しい取り組みだった。多くの情報を写真や身近な例など工夫して解説していてとても理解しやすかった。

## ●発表『Soft City』

ソフトシティとは、シンプルで心地よく、毎日快適に過ごせるようデザインされた街。How do we move from the current reality in most cities, separated uses and lengthy commutes in single-occupancy vehicles that drain human, environmental, and community resources--to support a soft city approach? It shows how this is possible, presenting ideas and graphic examples from around the globe. 効率性と環境への配慮を高めることと、人々の幸福と生活の質との結びつき。



Q：レイヤリングとは

A：建物の1階にお店、上階はアパートやオフィスといった混在する形などの提案。東京で



もランドリーカフェなど施設を融合させている例も。

Q：Hygge（ヒュッゲ）とは

A：北欧の文化にある言葉で、英語では「Cozy atmosphere」。

生徒たちのワークシートより

スペースの作り方次第で人々が交流しやすくなったり、また公共の場であっても心地よい空間を作ることができるという新しいまちづくりの視点だった。空間をどう利用するか、その印象は、街全体の雰囲気に影響するとわかりました。どう空間を変化させればどうなるといった図を使った説明などわかりやすかった。

### ●発表『Bird On Fire』

Bird On Fire offers finding ways to sustainability at a time when governments are failing their responsibility to address climate change. 3つのパート、1 why is Phoenix unsustainable? /2 Why does it matter? /3 What needs to be done? から解説。フェニックスはアメリカでも最も急速に成長している大都市であり、膨大なエネルギー問題も抱えて成長に伴う欲求が無制限に膨れ上がる持続可能性の最も低い都市。技術よりも、政治的および社会的な改革の必要性を主張。Growth-at-all-costs business ethic have perpetuated social injustice and environmental degradation. The success of the green democracy can work, redressing the claims of those who have been aggrieved in a way that creates long-term benefits for all. フェニックスは気候変動を食い止めるための大きなキ

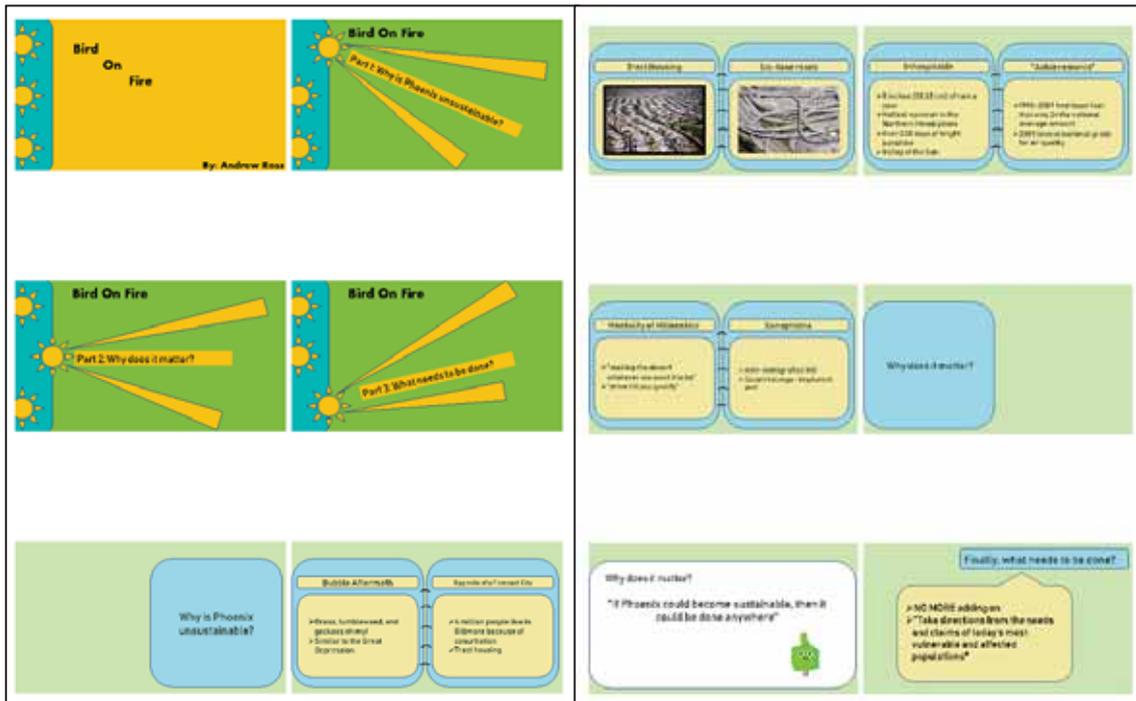


一となる場所でもある。

Q：フェニックスでの深刻な水問題

A：大都市であるにも関わらず水のために長距離を車で移動することも

Q：大都市ならではの貧困の差が環境問題よりも大きな問題？でも一方でNYは持続可能な大都市として論文などで例に挙げられることも多い。違いは？



生徒たちのワークシートより

圧倒的な車社会、砂漠化など気候変動にも影響を受けやすい厳しい気象条件、排他的な面も、その都市が持続可能なよいまちづくりをできれば良い実践例となる。なければ作る、ある場所に行く、ではなく、あるものを活かす方向性に共感した。環境の悪い都市を取り上げて考察することはあまりなかったのでおもしろかった。

●発表『デンマークのスマートシティ』

デンマークが取り組む政策として、「教育」「男女格差」「医療機関」「政治」「エネルギー2050」「自転車政策」「アマー資源センター」「ハーバーバス」を紹介。子どもの時からの教育で政治や税金、そして環境問題などについて学ぶ機会を多く作り、自然と理解し参加する仕組み作り。高い税金だからこそ、その使い道にも高い関心が常に寄せられる。積極的な環境に対する取り組みは、便利さとの引き換えではなく、それと共に健康問題や楽しみや快適さなど生活の質も向上させる政策を実施。



Q：デンマークは国全体での取り組みなのか、一定の都市での取り組みなのか。

A：スマートシティとしては、いくつかの都市が代表されている。

Q：医療機関のデジタル化に付



いていけない高齢者はいないのか。

A：サポートする仕組みも整っていて、逆に無駄な手間が省けるなど便利になっている。

#### 生徒たちのワークシートより

日本では自転車利用者も多いが、専用車線や駐輪場所をもっと増やせないのか。世界で注目される様々な課題に対して既に政策を実行し、課題を楽しい方法で解決しようとしていると感じた。

スライドもわかりやすくまとまっていて、デンマークにとっても興味を持った。

#### ●発表『THE DEATH AND LIFE OF GREAT AMERICAN CITIES』

著者は作家兼都市活動家の Jane Jacobs. 1950年代のアメリカにおける都市計画について多くの都市近隣の衰退をまねいていることを批判し反対した。”so many streets are different, so many people are different.”として、NYのスラム街の再開発においても、ただスラム街をなくせば問題が解決するのではなく、その街の個性やそこに暮らす人々を尊重することこそ大切である。



流行りの都市計画や流行りの建築ではなく、人が行き交う何気ないストリートライフこそ文明的で暮らしを楽しくする要素だと訴えている。多額の開発資金に比べ少なすぎる多様性の危険性について指摘。たくさんの用途のあるまち、たくさんの人の目があるまちが活気や安全を作る。人がスラムをつくっているのではなく、まちがスラムをつくっている。



生徒たちのワークシートより再開発は、機能や見た目の美しさが優先されるものだと思っていたので、市民の視点から取り組まなければ活気は生まれないと分かった。まちのブロックを小さくして、多くの通りや違った景色、多様な店に様々な用途、常に行き交う人たちが街全体を繁栄させると思った。英語の本を日本語でシンプルに的確に説明されていてとてもわかりやすかった。

### ●発表『Happy City』

個人的に、海外の都会を歩き交う人たちは楽しそうだが、日本では暗い顔をしているというイメージ。そこからこの Happy City というタイトルの書籍に感心を持った。ボゴタ市長であったエンリケ・ペニャロサによる政策によって、難民の大量流入、長年にわたる内戦、貧困や郊外、政府の機能不全による治安の悪化で世界でも最も危険な街とされていたボゴタをどのように安全で幸福を感じる Happy City としたのか解説。まず幸福の定義を、富で

はなく、人々の交流や自然とのふれあい、誰もが排除されない平等さなどとした。富の上に富を築く経済成長の後、アメリカなどの豊かとされる国の人びとの幸福度はそれほど高くなっていないことを指摘し、その価値観とそれまでの政策を否定した。都市の存在を定義する形やシステムを変えることで、たとえ経済が低迷しても、生活は改善される可能性がある。具体的な政策の例は徹底的な車の規制と公共空間の見直しなど。わかりやすい例としてDisneylandを紹介、パーク内は歩く道、景色、お店、香りなど全てのコンテンツが、そこにいる人たち全てを楽しい気持ちで満たすようにプランナーによって計算されているという。



Q：ディズニーは現実的でもなく、与えられたものなので、それで皆が幸福を感じるのか。

A：全員の幸福というとそれはどのような街でもあり得ないが、幸せなまちは経済発展ではなくあくまでアーバンデザインの観点から捉えようとした例。

生徒たちのワークシートより

お金持ちが幸福ではない、乗用車を罰する、などある意味一方的に押し付けられる価値観や政策の下で、幸福を感じない人もいるはずだと疑問に感じた。

住みたくなる街は単に利便性ではなく、絶対的に人間の心理が関連すると感じた。

ディズニーなど私たちが知っている例もあり、わかりやすく考えやすかった。

#### ●発表『ドイツの地方都市はなぜクリエイティブなのか』

身近な街でいうと精華町は住宅地で店も少なく、寝泊まりするのに帰ってくるというイメージ。この書籍で取り上げているドイツの地方都市エアランゲンとはそうではなくそこに関心を持った。まちづくりなど完全に行政にやってもらうものという感覚の日本とは違い、街の独立性も高く、市民と行政の距離が近く、企業と地域の関りも深く、協働してまちを創っている点において大きく違う。快適さの大きなポイントとして、歩行者が滞在するための道路整備による快適さ、自転車の普及による環境保全や健康増進、まちの企業からは住民も恩恵を受けるイベントなどの工夫で生み出される一体感など。よいまちづくりにおいては、市民と行政と企業の連携の必要性を解説。道路整備では、スケートリンクの原理で、既存の考えやルールを取り払えば、自分たちで考え、自然とうまく回るということを利用している。

Q：ドイツの積極的なまちづくりは、限られた街だけか。

A：ドイツのまちづくりが意識され、積極的になったのは戦後から。戦争で多くが破壊された。また、黒い森の問題から環境問題に高い関心が集まったことはまちづくりのコンセプトに対して大きく影響している。都市間で住みよい街か、よい街かを競い合うこともあり、それが市民のまちづくりへの関心も高めている。





Q：日本では国民が関心がないから行政に関与する機会がないのか、行政が国民に門戸を開いていないのか。  
 A：そもそも行政のしていることが「住民のために」「自分たちのために」という意識が低いのではないか。

生徒たちのワークシートより

街のストリートライフを重視したまちづくりについてわかりやすかったです。日本がドイツのように鳥の目（全体的なメリットを見る）で客観的なまちづくりをできないのは、アメリカのまちづくりを参考にしてきたということが興味深い。他の都市と競争すると良い循環が生まれ、地域の活性化が半永久的に続く。

●発表『ドイツのコンパクトシティはなぜ成功するのか』

ウォーカーブルシティを知り、車がなくても豊かな生活についてもっと知りたいと興味をもった。ドイツでのシティデザインの2つの考え方として、①Short way city と②Shared spaceがある。①はテンポ30ゾーンなど住居エリアでの静音、安全、大気汚染の配慮義務。②は遊びの道路での車であっても歩速でなど、交通インフラを仕切る全てを一度排除し、①②ともに道路は自動車優先という意識の排除をした。まちづくりもマイカーを不要にするデザインを取り入れる。同時に、公共交通である市民バスやトラムの運営を充実させる。本数だけでなく、ボランティアでの運営、小型バス、わかりやすい運行表など市民に近い存在にすることで利用しやすくしている。

Q：自動車の利用を規制して徐々に排除する際に、車産業や経済連からの反対や圧力はないのか。

A：ドイツでは、話し合い「正しい」方向性が決まれば、それに向かって全体が進む。国民性？仕組み作り？物事の進め方では、お金儲けよりも倫理的な部分が重要視されている。





生徒たちのワークシートより

「交通ルール」をあえて設けないことで緊張感が保たれ事故が減るという原理を利用する道路整備は新しい視点でとても新鮮だった。

まちづくりにおいて自家用車を利用し辛くするという発想も日本ではなさそう。

スライドも見やすく難しい言葉を1つ1つ押さえながら分かりやすい説明だった。

●教員による総評

全員の発表が終わりました。個性が出るおもしろい発表がありとても楽しく聞くことができました。まとめる力も以前よりさらについていると感じこともできました。それぞれが読んだ書籍から学んだことを共有し、それぞれまさに多様な視点から改めてまちづくりを見直すことができたことはとても有意義なことでした。2学期には、この共有した知識や意見を大いに参考にして、いよいよサーチブック作成に本格的に取り組んでいきます。頑張りましょう！



## 2022年9月2-2023年1月17日 SSD(高3)授業「卒業論文/リサーチブック作成」

2学期はいよいよリサーチブックにまとめる卒業論文の作成に取り掛かります。1年生で学んだSDGsの基礎知識や住みたいまちについてのリサーチ、SSRで取り組んだリサーチスキルの学びやまちづくりに関する課題図書の本読、実際にフィールドワークへも出て京田辺市の課題に対する探求にも取り組みました。京田辺市のまちづくりの担当課の方にお越しいただいてお話を伺ったり、全国大学まちづくりフォーラムに毎年参加されている真山ゼミの皆さんにZoomでお話を伺い「まちづくりとは何か」を学ばせていただきました。コロナ禍で方向修正も余儀なくされましたが、これまでの学びの集大成として、3年生ではそれぞれが卒業論文を完成させて集大成となる1つのリサーチブックとしてまとめます。

自分たちのテーマを決め、さらに関連図書の本読と内容を共有しながら理解を深めます。

### ●卒業論文の計画

卒業論文は約15000~20000字(原稿用紙40~50枚)。作成要領を作り計画的に進めます。

#### 卒業論文とは

自由または指定されたテーマについて参考文献を調査しまとめただけのレポートとは異なり、自分で新しい問題を設定し、その問題の解決策をさまざまな根拠を示しながら、結論へと導いたものであり、何らかの独創性(オリジナリティー)が求められる。

### ●卒業論文作成の準備

#### 1 トピックの設定(案を3つほど提出 9月)

一番大切なことは「自分で考え、自分で決めること」。そのために「疑問を持つ」ことがとても重要である。授業の内容について深く考えたこと、自分で読んだ本、普段の生活の中で生じた素朴な疑問、こういったことから発展させて考えるのが良い方法といえる。



#### 2 先行研究の調査(参考文献、論文を調べたリストの作成 9-10月)

自分のテーマに関する論文(先行研究)を集めることが重要。そのために自分が読んだ論文の参考文献表をたどって集める、図書館で自分のトピックに関係の深い書籍や雑誌を探すなどが大切である。

#### 3 先行研究を精読(計画的に参考文献から得た情報でノートを作成 10月)

先行研究を読み込んで内容を理解することで、今までにどのようなことが明らかになっていて何が未解決なのかを把握することが重要である。

#### 4 データを集める(自分のトピックに関係するデータを抜き出す 11月)

必要な場合はアンケート調査もあるが、統計の取り方や性質には注意する。先行研究と異なる主張をする場合は、それを裏付けるデータの収集が必要である。新聞、雑誌、文学作品などを調査するなど、データベースやWebなどを用いてデータを抜き出す。



### ●卒業論文の書き方

#### 1 読者にわかりやすいこと

丁寧を書くこと。自分自身の言葉で語り、人の言葉を借りる際には必ず出典を明らかにする。他者の見解、一般的な知識、を明確に区別すること。

#### 2 論理的に語り、トピックを明白にすること。

論点を明らかにし、具体的なデータに基づいて

理論的に議論を進め、問題設定の部分と結論部分を明確にしながらか読者を説得できるように書くことが重要である。

#### 3 卒業論文の構成

いくつかの章に分けて論文の構成を明快にする。さらに各章を小さな節に分け、各節にも内容を示す小見出しを付けると良い。

#### 4 書式の統一

定められたフォーマットを守ること。誤字脱字がないか、用事用語が統一されているか、参考文献や引用文献において書式が首尾一貫しているか、合致することが重要である。

いずれにおいても、その時点で方向修正ができるので、教員のアドバイスをまめに受けることは大事です。生徒は早速シートにそれぞれのテーマの候補、産履文献などを記入しながら、計画を練っていきました。トピックについては、例えば「まちづくり」では幅が広すぎ大きすぎます。これまでの学びや課題図書などから、より深めたいこと、興味を持ったこと、素朴な疑問などを参考に、組み合わせるなどより具体的に、そしてできればオリジナルを意識しましょう。

### ●テーマについて discussion

卒業論文をまとめるリサーチブックの作成にあたり、大きなテーマを決める話し合いをしました。それぞれの興味のある範囲は異なりますが、それをまとめるテーマとなります。ここで大切なことは、それぞれがもれなく意見を出し合い、話し合うことです。生徒たちは小さなグループからあっといいう間に大きな輪になり、活発に話し合いを進め



ていました。前方に映り出された共有のオンラインページにはどんどんテーマの候補、そして章の分類が書き加えられていきました。教員の Express! Share! という合言葉を自然に実践できていました。



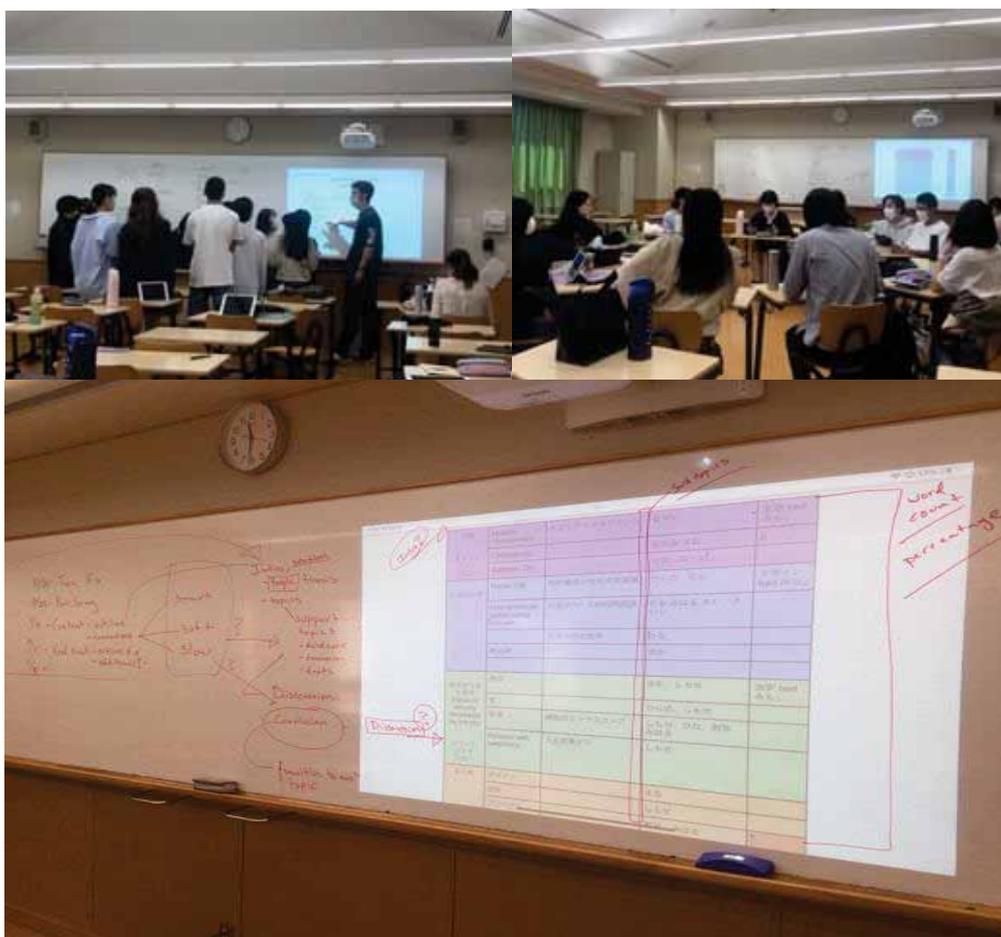
#### テーマ（今日の途中過程）

- (1) Transportation in Kyoto City 京都市の交通と公共の場の向上を目的とした海外の慣習の導入
    - (2) 京都市の交通を利用して充実した空間の生きやすさを改善
  - (3) Implementing different ideas of a sustainable city (Smart city, green city, compact city etc.) into every city to create a unique cities.
    - (4) 交通政策による市街地活性化(Venice)と住民の幸福度比較 Happy city
      - (5) 世界の交通政策とモビリティマネジメント教育
      - (6) 京都市を Walkable city にするには
      - (7) 世界の都市政策が高校生の日常生活に与える影響
      - (8) 都心と郊外をつなげる政策のメリット
      - (9) 公共空間の充実のシビックプライドの関係性
    - (10) 日本を個性のあるまちにするためには（イタリアの slow city を参考に）
      - (11) Implementing The new urban agenda in 京田辺
  - UN-Habitat promotes urbanization as a positive transformative force for people and communities reducing inequality discrimination and poverty.
    - まちづくり、街を安全にすること、街に住みたくなる、そうするとコミュニティができ平和になる
    - (12) Territorial development
    - stimulate sustainable, inclusive economic growth in these lagging Lands and urban spaces.
    - (13) City resilience program in cities impacted by natural disasters
- Catalyze a shift toward longer term, more comprehensive multidisciplinary packages of technical and financial services, building the pipeline for viable projects at the city level that in turn, build resilience.

整理した結果、テーマは「京都の交通と公共の場の幸福度の向上」となりました。

#### ●卒業論文の取り組み

テーマ、具体的な章、トピックを決めるための話し合いが続きます。方向性が決まれば、それぞれが担当する部分、役割分担のうえ、ここからはしばらく各自の作業となりました。



#### ●全国高校生フォーラム参加に向けて

冬休み中の12月18日（日）、文部科学省が実施する「2022年度全国高校生フォーラム」がオンラインで開催されることになっています。本校からはこのSSD受講生4名が代表として参加します。このフォーラムはWWL及びSGHネットワークに参加する高校生がオンラインにより一堂に会し、日頃取り組んでいるグローバルな社会課題の解決方法や提案等の英語でのプレゼンテーション映像発信と、生徒交流会が行われる予定です。



同志社国際チームの発表の内容は、SSD 講座で取り組んでいる持続可能なまちづくりをテーマに、欧州や京田辺市についてのリサーチブックを作成しているなかで、「歩くまち」



にフォーカスし提案するという形です。プレゼンテーションのデータやスクリプトは講座のメンバー全員で準備しようということに。全て英語での発表や当日のディスカッションではありましたが、いろいろな立場の人が参加しようという思いがあり、英語がネイティブではない生徒がチャレンジすることとなり拍手がわきました。卒業論文を仕上げている生徒たちにとっても、改

めて自分たちのリサーチした内容や他校の発表を聞くことは良い刺激になりそうです。

### ●卒業論文の取り組みにあたって教員からのアドバイス

生徒たちはテーマ、そしてやることについて確認し合いながら自分たちで決めています。誰の意見も漏らさず聞こうとする姿勢がいつもあることは本当に素晴らしく、それぞれのやりたいこと、集大成となるものを皆でまとめていこうとしています。

教員からも当初よりこの講座は自主性を重んじているという話がありました。教員はサポートです。実際にいくつもの論文を書いてきた山田教諭、帖佐教諭からも以下のアドバイスがありました。

とにかく記録しよう

読んだ本、リンク、記事、話し合いの内容、とにかくまとめてわかりやすく全てを記録し、必要な時に必要な情報を呼び出すということがとても大事  
最初の疑問の投げかけと最後の提案が明確でリンクしていることも大事

### ●2学期末の課題（日本語でも英語でも可）

#### 1 Reflection

卒業論文をまとめてリサーチブックを作成するという Grad project について、まとまってきました。このプロジェクトをまとめるにあたって、あなたはどのような貢献、役割をしましたか。振り返ってできるだけ詳しく書いてください。

#### 2 Research Planning

Grad Project について、各自の分担も決まってきたと思います。あなたは今後、どのように自分の担当するリサーチを進めますか。なぜそれが必要かなどもできるだけ詳しく書いてください。

この課題に取り組むことで、自分の役割と今後のスケジューリングなど改めて確認します。3学期にはいよいよ各自のファイルを持って集まってもらいます。1冊の本にします！

### 提出課題 Reflection より一部抜粋

「自分と同じグループの人でなくても広く内容の相談を受けたり意見交換をしたりした。」「卒業論文を書くのは自分にとっても周囲の人にとっても初めての経験なので、質問されたり意見を求められたりしたら一緒に解決策等を考えた。それによって、自分が書きたいと思う内容がはっきりしてきたので自分自身への利点もあった。」

“I decided to write about how smart cities could affect these points in our society.”

「リーダーシップがないのであまりみんなをまとめることなどできなかつたけれど、みんなの意見をちゃんと聞き、どうやったらもっといいアイデアになるかなど話し合いました。」

「みんなからの意見も聞き、自分の担当のテーマにも活かせました。3学期は全く違うテーマの人とも意見を交換し、お互いの改善点などを出し合い、クラスみんなで卒論を完成させたいです。」「積極的に周りの意見を聞き自分の持っている力を発揮してどのようなトピックなら全員の調べたい内容や話題を含めれるかを導くのに貢献した。」「メンバー一人一人に声をかけ、トピックの内容を全員でシェアしながら、実際本を読むとき読みやすいように順番をある程度確定させた。アウトラインをあらかじめはっきりと決めておくことで、自然な流れの文章を書いていくことができると思ったからだ。」「言葉の定義に微妙に認識の違いがあったため、理解してもらうのは時間がかかった。しかし建物の美術的なデザインではなく、行政との関りをメインに学ぶ機会はあまりないと思うから、自分もみんなもいい機会になったと感じる。」

“I was able to use my skill to cooperate and gather information and ideas from other people and come up with a decision as a class. I think I am good at helping my classmates with expressing their ideas, and I wish to always support the team.”

「みんなでメインのテーマを決めるときにはその意見に納得していない人がいないかどうか考え、一人だけの意見ではなく、みんなの意見がしっかり反映されるように考えて意見を出した。」

“I have worked on trying to help group people into functionable sections.”

「タイトルを決める際にみんなの読んできた本の内容もしっかり入るようにしたかったので話し合いをしているときに一つの内容に集中した提案があったのでそこで他のことも書けるような内容にできるよう提案を発言しました。」「具体的な数値をだしたり、難しい単語は説明をいれわかりやすく伝えたりなどの工夫をしました。」「提案について疑問がある際はチームメイトに聞いたり、それについて調べたりして、内容に厚みをもたせるようにしていた。ミクスドユースについての論文や記事を読むなどの事前準備もして、意見をいえるようにもした。」「次回からは人任せにせず、自分から積極的に提案を出していきたい。」「皆やりたいトピックが様々で、そのトピックをひとつにまとめられる主題を考えることはとても難しかったです、なるべく皆が望むことが書けるように私も色々アイデアを出しました。」「交通や空間デザインのトピックを選ぶ人が多かったですが、それに商店街のついでトピックを合わせられるような包括的で関連性のあるテーマになるように考えました。」

この内容からも、生徒たちが工夫して相手に伝え、皆の意見を聞き、誰の希望も漏らさないように取り込み、自分の役割をきちんと認識してグループワークにも取り組んでいたことがわかりました。

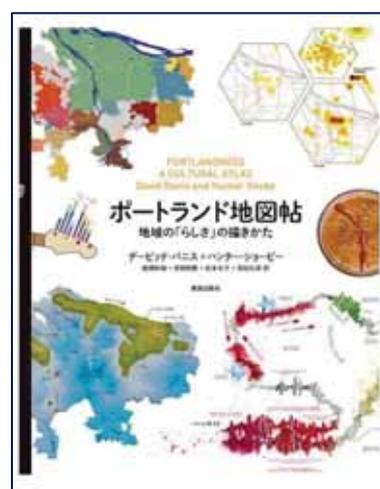
卒業論文は、冬休み中もそれぞれが作業の過程を Google Classroom にて共有しているため、他の人の内容も参照しながら進めます。最終的に一冊にまとめるために、統一感を持たせることも大事な要素です。教員もチェックし、気になることは都度アドバイスできるような体制になっています。

アドバイスの例：データや引用の書き方、また何が根拠になっているかは明確に。

卒業論文の完成、そしてリサーチブックに仕上がるのが楽しみです。

### ●1月20日特別講義「サステナブルなまちづくり」地球環境学博士 松本文子先生

3学期が始まり、卒業論文の取り組みも大詰めとなるなか、特別講義を聞く機会を得ました。講師は、大阪大学C Oデザインセンターにて建築・都市計画論について教鞭を取られ、同時に国立民族学博物館の研究者でもいらっしゃる松本文子先生です。先生は、この講座においても大変ご縁があり、講座で参照していた『ポートランド地図帖―地域の「らしさ」の描き方』の翻訳者のおひとりでもあり、帖佐教諭の高校時代の同級生でもあります。「サステナブルなまちづくり―ポートランドと京都市から学べること」と題してお話を伺いグループワークもさせていただきました。



先生のお話のキーワードより

#### 【コーデザイン】

コーデザインとは一緒にデザインすること、1980年代には、デザインする人と使う人が分かれていましたが、2014年ころから、with people by people というように上下関係ではなく一緒にという変化がありました。皆さんの意見もぜひ行政に提案していくべき！

#### 【まちの光と闇】

最近のキーワードのひとつにダークツーリズムという言葉があります。まちづくりにおいても、一番明るい部分と暗い部分を押しえて、真ん中を埋めていくという手法です。ここでのダークサイドはテレビでも取り上げられたアフガニスタン、そして先生が訪問されて目の当たりにされたドバイの状況を説明してくださいました。一見成功しているようにみえても必ずダークサイド（負の面）があるということです。よいところだけを見ない！

#### 【ポートランド】

おしゃれな街としてイメージのあるポートランドは IT 関係者が多く集まる街でもあり、

そのコンセプトも “make Portland weird!” というように、落書きもアートとして認定、ロハスといって地球環境保護と健康を重視する生活の仕方を求める人たちが集うなど個性的で象徴的ともなっている特徴があります。このポートランド地図帖は、地図で都市文化を描く新しい手法の本で、ポートランドのあらゆる面を切り取り、掘り下げて地図で解説した、実は学術的な本です。難しい学術書ではなく、わかりやすく人に伝える、どうやったら興味を持ってもらえるか、デザイナーも加わり、どのページから見ても楽しい本になっています。自分の研究も見てもらわないと意味がない！幅広く広めないという意味がない！

#### 【橋の下】

この書籍の中で、松本先生が担当された翻訳の部分は「橋の下」についてでした。まちなには必ず橋があり、そこはれっきとした公共空間でもあります。それなのに橋の下は暗くホームレスが住むような閉鎖的な環境になりがちです。そこでさまざまな橋を取り上げ、そこをイメージアップさせるようなポートランドの取り組みを紹介しています。



京都もどこかのある部分を切り取って拾い上げてもいい！答えを外に求めずに自分がどこに興味を持っているか捉えなおすといい！京都は環境団体もロハス層も多いので環境地図も作ることができる！

#### 【京都市について】

京都市のダークサイドを知っていますか？東九条には労働者として過去に朝鮮半島から集められた人たちの住むコリアンタウンがあり、歴史的に長期間手厚い補償もないままでした。京都市の発展の陰にも、そういった都市特有のスラムの存在、差別の実態があります。ぜひ「柳原銀行記念資料館」を訪れてもっと知って欲しいと思います。被差別部落の人たち自らが作った唯一の銀行が資料館になり保存されています。

京都のイメージといえば、動画を紹介してくださいました。そこから、歴史、伝統の技、静か、奥ゆかしい、気品がある、そういったイメージを持ちます。どういうコンセプトで撮るか、撮ってからイメージを固めていくか、どちらにしても動画を作るということは大きなパワーツールになります。想像力とクリエイティブさで！

#### 【Miroを使った Design thinking】

松本先生がご用意くださったデザイン思考的ワークショップにも取り組みました。Miroではオンライン上のホワイトボードで、ボード全体を保存して管理、必要な部分だけを画像やPDFに変換して別の場所に保存することも可能です。簡単に書き込みや付箋を貼ったりはがしたりでき、それを共有することができます。今日のお話を念頭に、京都市に対する取り組みの提案について3つのグループに分かれて話し合い、それぞれ1つの提案としてまとめます。それを共有し、皆の意見を聞きます。



### ① サブスク

レンタル自転車、地下鉄、バスなど事業者と連携してサブスク化。車中心から歩きや自転車、公共交通機関中心の生活に。

### ②障がい者のすごしやすさ

障がい者にもより便利に、今ある地下鉄からの地下道をどうブランディングするか。

### ③公園をもっと運動のできる場所に

歩ける森を。まちと自然のつながりを作る。何より住民にとってよい街へ。

このワークショップでは、それぞれの提案をしてから、それについて多くの意見がどんどん Miro 上に出て、そこからそれぞれの提案がどんどん良い方向に膨らんでいきました。こういった手法でのディスカッションをしてみると、とても学びが多く、今日だけでもたくさんヒントがあり、今後大変期待の持てる提案の話し合いをすることができました。

松本文子先生には、最後に研究員として勤務されている国立民族学博物館の「みんパック」という面白い取り組みをご紹介いただきました。これは世界の違った文化圏をより深く学ぶために、思考を凝らしたその地域の文化的なものや日常に使われている実際のものが1つのトランクに詰められていて、これを誰もが送料のみで借りることができるということです。この日は「イスラム教とアラブ世界の暮らし」をお持ちいただき実際に皆で体験させていただきました。とても楽しそうな様子で、そこに行ったことのある生徒もない生徒もいる中で、実際に触れて体感することで一気に違った文化を近くに感じるすることができました。

生徒たちが事前にお送りした質問にも丁寧に答えてくださり、大変参考になりました。先生がこの道を志すきっかけが少女のころジブリのナウシカを観て自然を守りたいと感じたこと現在の取り組みにも一貫してつながっているというお話も印象的でした。松本先生、大変お忙しい中このような機会をつくってくださり本当にありがとうございました。



## ●最後のクラス

いよいよ、3年間の学びの講座も最後となりました。やってきたことを形にする取り組み、卒業論文を完成させようとしている生徒たち。十分な話し合い、そしてやるべきことを積み上げてきて多くの成長が見られます。最後のクラスでは、前のスクリーンにそれぞれの原稿を映し出しながら修正箇所を最終確認しました。高校を卒業して、それぞれの進路先へ進む生徒たちですが、この講座では苦労も多かったなか最後までやりきったという達成感と次への大きなステップになったという実感を持っているようでした。SSD を担当した山田教諭と帖佐教諭も、いいクラスだったと振り返りました。個性豊かなメンバーでもあり、進路で大変な時、行き詰って HELP が必要な時、教員に、仲間に声を掛け合えあえる素敵なメンバーでした。

あと少し、リサーチブックとして冊子にまとまるまで卒業論文の最後の仕上げが残りますが、卒業式には配布できる予定です。これからもこの経験を活かしてそれぞれの場所で活躍してくれることを願い、応援しています！

